

2014年度受託研究概要報告

車両内外に取り付く製品全般及びシステム全般

研究メンバー

見明 暢	デザイン学部プロダクトデザイン学科助教
曾和具之	デザイン学部プロダクトデザイン学科准教授
松本雄樹	デザイン学部プロダクトデザイン学科実習助手

委託者

株式会社 東海理化

研究概要

株式会社東海理化は国内の車メーカーへ、ハンドルやドアロックなど多様な部品を供給している。今回は車両内外の新たなカーアクセサリーの提案という依頼を受けた。

デザイン開発するにあたり、先方より『自動でコントロールしてもらいたいこと、サポートしてもらいたいこと』というテーマを頂き、プロダクトデザイン学科3回生7名と共に取り組んだ。参加学生は、免許を取得していないもの、留学生など、依頼先とは違った視点を持ったメンバーを揃え作業に関わった。

提案物は基本的に実働のモデルとし、学外での展示やプレゼンテーションを実施した。デザイン提案アドバイザーとして、株式会社東海理化から、鈴木康友氏、天野登巧広氏を、モデル制作アドバイザーとして伊本英俊氏、実働モデル制作補助として、MATHRAX LLC.久世祥三氏をお招きし、普段の演習では制作が難しい、実働のモックアップを制作した。

研究成果

学内での中間発表（1/16）、東海理化本社におけるプレゼンテーション（2/17-19）、東京JIDAデザインミュージアムにおける展示（2/20-23 六本木AXISビル）の三回の発表を行った。最終のまとめとして、プロジェクトをまとめた冊子を東海理化の方々のご協力のもと作成した。

自動でコントロールするというテーマを表現するため、MATHRAX LLC.久世氏にご協力頂き、実働のモデルを作成し提案した。また、プレゼンテーション用に、パネルを各案数点、プロダクトデザイン学科曾和主導でアイデア展開から、デザイン決定のプロセス、プレゼンテーションまでの行程を記録に残し、検討の段階で落ちてしまったが有効なアイデア、案決定プロセスの見える化に取り組んだ。過程をまとめた映像は東海理化本社プレゼンテーションで上映した。

学生教育面では、授業で制作が難しいモデリング技法やarduinoなどのデジタル試作ツールを用い、実働のモデルを制作したことで、デザインの幅を広げる機会をつくることができた。

提案面では、ハードウェアのデザインだけでなく、コミュニケーションデザイン、インターフェースデザインの領域にも踏み込んだ、カーアクセサリー分野の次世代への示唆に富んだ提案ができた。

